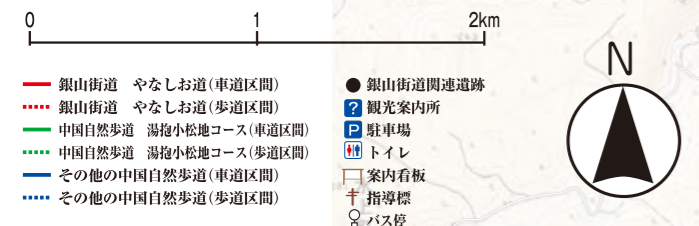


中国自然歩道 石見銀山街道コース

やなしお道/湯抱小松地モデルコース



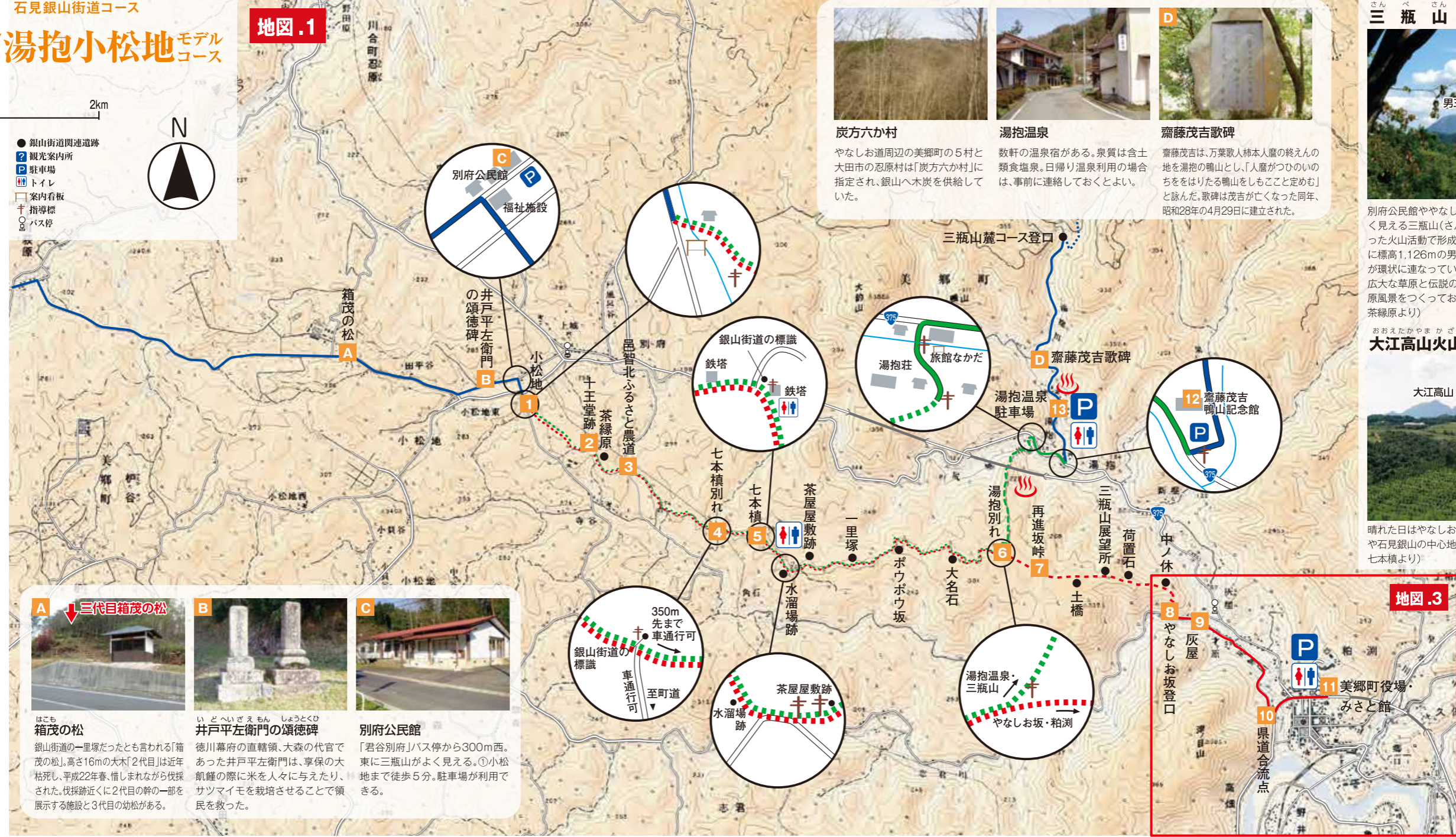
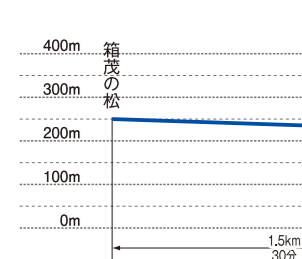
1 小松地 (車道・歩道分岐点)
 県道横に大型案内板 (地図) あり。やなしお道の西の起点で、民家横の橋を渡って山道へ入る。



2 十王堂跡
 竹林が美しい。かつて、十王と六観音を安置した小堂が建っていた。ここで道が直角に折れる。東側 (湯抱・粕洲方面) 200m 先に、三瓶山の眺望がよい「茶縁原 (ちゃえんばら)」がある。



3 邑智北ふるさと農道 (立体交差)
 やなしお道の下を邑智北ふるさと農道が通る。やなしお道の整備に用いられた「版築工法」と呼ばれる工法についての解説看板が設置されている。



A 三代目箱茂の松
箱茂の松
 銀山街道の一里塚だったとも言われる「箱茂の松」。高さ16mの大木「2代目」は近年枯死し、平成22年春、借しめながら伐採された。伐採跡近くに2代目の幹の一部を展示する施設と3代目の幼松がある。



B 井戸平左衛門の頌徳碑
 徳川幕府の直轄領、大森の代官であった井戸平左衛門は、享保の大飢饉の際に米を人々に与えたり、サツマイモを栽培させることで領民を救った。



C 別府公民館
 「君谷別府」バス停から300m西。東に三瓶山がよく見える。①小松地まで徒歩5分。駐車場が利用できる。



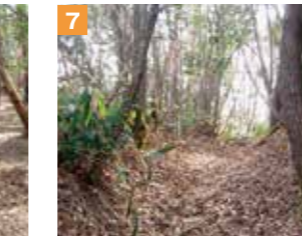
4 七本槇別れ (車道・歩道分岐点)
 七本槇までの350mは車両も通行する。



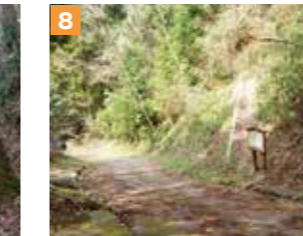
5 七本槇 (車道・歩道分岐点)
 携帯電話の中継アンテナが近くに立ち、民家に続く車道と分岐する。近くに新しいトイレがある。



6 湯抱別れ (湯抱小松地モデルコース・やなしお道分岐点)
 湯抱方面と粕洲方面の分岐点。



7 再進坂峠
 標高約290mの峠から東に向かうと、やなしお道最大の難所であった、やなしお坂にさしかかる。ここから600m東に三瓶山展望所あり。



8 やなしお坂登り口 (車道・歩道分岐点)
 やなしお坂は、やなしお道最大の難所で、この坂を通る荷役には割増賃金が認められていたといわれている。



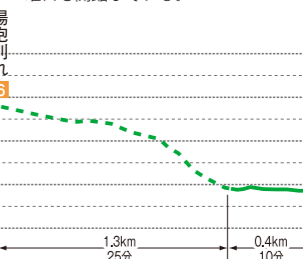
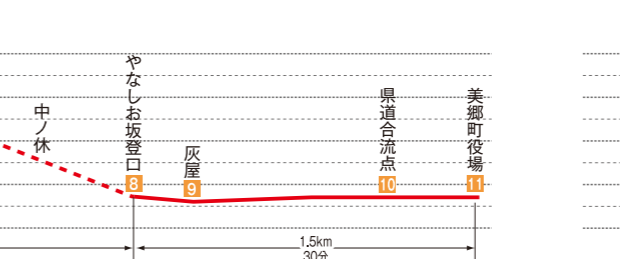
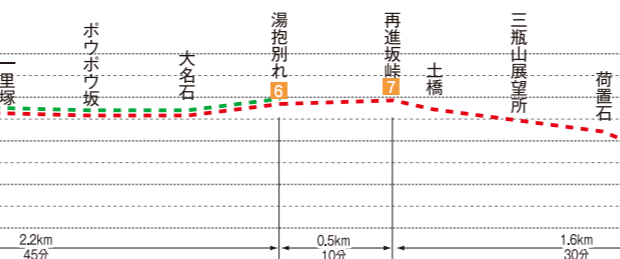
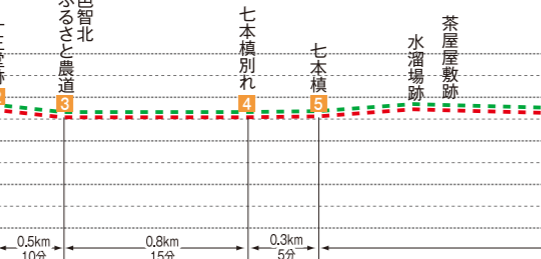
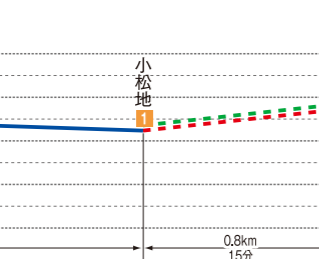
9 灰屋
 東方面に国道375号、「灰屋」のバス停がある。やなしお道は南へ、橋を渡るると馬頭観音がある。



10 県道合流点
 尻無川沿いの町道は、新宝来橋の南西200mのところで県道川本波多線と合流する。



11 美郷町役場 美さと館 (多機能コミュニティセンター)
 JR粕洲駅から徒歩10分。トイレ、駐車場が利用できる。隣接する「みさと館」は図書館を併設しており、土曜日と日曜日も開館している。



13 湯抱温泉 駐車場
 トイレ・無料駐車場あり。すぐ近くに温泉旅館がある。



12 齋藤茂吉鴨山記念館
 石見銀山街道コースと三瓶山麓コースの分岐点。柿本人麻呂終焉の地「鴨山」探索に情熱を注いだ歌人齋藤茂吉の偉業を顕彰する施設で入場は無料。ただし、開館は水曜日と日曜日・祝日 (12/29~1/5は休業) の9:00~16:30のみ。



炭方六か村
 やなしお道周辺の美郷町の5村と大田市の忍原村は「炭方六か村」に指定され、銀山へ木炭を供給していた。



湯抱温泉
 数軒の温泉宿がある。泉質は含土類食塩泉。日帰り温泉利用の場合は、事前に連絡しておくとうよい。



齋藤茂吉歌碑
 齋藤茂吉は、万葉歌人柿本人麿の終えんの地を湯抱の鴨山とし、「人麿がつひのいのちををはりたる鴨山をしもこと定めむ」と詠んだ。歌碑は茂吉が亡くなった同年、昭和28年の4月29日に建立された。



別府公民館ややなしお道の途中にある眺望ポイントからよく見える三瓶山(さんべさん)は、およそ10万年前から始まった火山活動で形成され、火口の室内(むろのうち)の周囲に標高1,126mの男三瓶、女三瓶、子三瓶、孫三瓶の4つの峰が環状に連なっている。その裾野では、西の原、東の原などの広大な草原と伝説の浮布池や姫逃池が、特色のある山岳・高原風景をつくっており、国立公園に指定されている。(写真は茶縁原より)



晴れた日はやなしお道より西の方角に大江高山(標高808m)や石見銀山の中心地、仙の山(標高537m)が臨める。(写真は七本槇より)

